

会議記録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

開催日	平成 25 年 3 月 18 日(月曜日)	開催時刻	13 時 15 分から 17 時 30 分
会議名	丸子地域協議会(平成 24 年度第 14 回)		
出席委員	齊藤重一郎会長、丸山かず子副会長、池田佐代子委員、内田弘子委員、北村好美委員、工藤裕子委員、久保田和英委員、齊藤實委員、笹井文雄委員、佐藤重喜委員、清水三枝委員、竹花和彦委員、竹花節子委員、松山慶子委員、宮坂雄一委員、宮崎涼委員、宮下正明委員、村松正孝委員、山本進委員【欠席】中澤ゆかる委員		
市側出席者	関丸子地域自治センター長、宮澤センター次長兼地域振興課長、児玉地域振興政策幹、藤澤地域交通政策課長、柳沢地域交通係長、中曽根地域交通係統括主査、田中地域交通政策係主事、芹澤市民生活課長、高野健康福祉課長、小相沢建設課長、丸山産業観光課長、滝沢上下水道課長、矢島丸子学校給食センター長、小林消防課長、大平地域政策担当係長、翠川地域政策担当主査、馬場		

会議次第

1 開会（宮澤センター次長）

- ・配布資料の確認、タイムスケジュール等の説明、欠席委員の報告

2 あいさつ（齊藤会長）

本日は、平成 25 年度わがまち魅力アップ応援事業の選考ということで、長時間になるろうかと思いますが、ご協力をよろしく申し上げます。

なお、本日の全体会は、次第 4 の報告事項までを公開とし、その後に行う魅力アップ応援事業の審査結果確認と採択事業の決定に関しては、各団体の活動詳細や条件付採択など、複雑かつ慎重な審議が必要となるため、会場を移して公開しないこととしたいと思います。よろしく申し上げます。（全員承諾）

3 協議事項

(1) 平成 25 年度わがまち魅力アップ応援事業選考審査について

- ・事務局から審査方法等説明。

主な質疑の内容

（丸山副会長）委員の皆さんにお願いしたいのは、地域協議会は地域の活性化を推進していくという立場であり、地域の応援をするという意味合いを持って審査にあたっていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

- ・事業説明及び質疑応答 資料：平成 25 年度わがまち魅力アップ応援事業 選考審査資料

「地域で育てよう！未来の国際人(英語のできる子ども達)」(地域で英語！ともだち英語の会)
【事務局から団体概要と関係課調書について説明、申請団体代表者から事業説明】
 (委員)「なぜ英語を学ぶのか」動機がわからない子どもが多い” “できるだけアカデミックな内容にしたい” という話があったが、低学年の子どもたちには、こういうところに行くというのは理屈ではなく、「行ってみたら楽しかった、だからまた行きたい」というのが基本ではないかと思う。何のために英語を学びに行くのかを考える子どもはあまりいない。そういう意味で、内容にアカデミックという面も含めて、子どもが行ってみたら楽しいと

いう内容のものをふんだんに盛り込んでいただきたい。御意見ということでお願いしたい。

(委員) いままでこの事業は、自分たちだけではやっていたのか。

(代表者) 活動としては、これほどアカデミックなものは費用が発生するためやっていたが、資料3-4の団体概要書にあるように、定期的な英語学習会の実施、地域の交流イベントには積極的に参加している。また、これほど大掛かりなものではないが、サマースクールという形で外国人の先生に来てもらい、外国のことを学んだりしていた。今回は、これをもっと色々な学年の子どもたちがたくさん的人数で集まってできるようにということで、かなり大掛かりな内容にしている。今まではその縮小版のようなことをやってきた。

(委員) 平成23年から活動しているが、何人くらい集まるのか。

(代表者) 現在、会員は20人弱の子どもたちがいる。そしてそのご両親(主にお母さん)何か活動するとなると30人くらい的人数で今のところやっているが、今後の活動としては、資料3-8の事業内容詳細、各活動に入れてある「場所と予定人員」の人数を想定して告知活動を行っていく。場所もこの人数の入れる場所ということで今年度はこれでやっていきたいと考えている。

(委員) 最近、交換留学生を募集しても高校生の応募が少なく、留学生が大変少なくなっている。確かに、なかなかふれあいの機会がなく、子どもたちが大変臆病になっている。そういう意味では、有意義な活動で是非応援していきたいと思う。ただ、3月8日の衆院の予算委員会で中山元文科相が、「留学先で日本の留学生がいじめに遭っている。中国などからの留学生が『うちの祖先が昔虐待を受けた』と迫る形でいじめに遭っている。」ということを書いてきた。教材として、例えば日本の歴史なども加えていただけたらありがたい。

共生のできる地域づくり(ゆうあいまるこ)

【事務局から団体概要と関係課調書について説明、申請団体代表者から事業説明】

(委員) 外国籍の大人と子ども的人数、それぞれの国籍を参考までに教えてほしい。

(代表者) 現時点では、大人の国籍は、ブラジル、ペルー、アメリカ、中国。子どもは主にブラジルと、呼び寄せの子どもと呼んでいるが、母国においてきた子どもということで、中国の子どもが多い。比率は、私どもの教室では、ブラジルと中国が半々くらい。子どもに関しては、個人サポートも入れるとブラジルが若干多い。

郷土料理を通じた内村地域住民の交流事業(内村っ娘の会)

【事務局から団体概要と関係課調書について説明、申請団体代表者から事業説明】

(委員) 資料5-3積算内訳書の消耗品費に会員ユニフォームとあるが、これは応援事業の事業費を使ってでも必要なものなのか。

(代表者) 色々なところのイベントに参加しているが、バラバラで出ていくとなかなかPRができない。例えば、名古屋にPRに行く際や来ていただいたお客さんに「内村っ娘」ということを印象づける一つの手段として、あったらいいなということ。内村の説明や地域の説明をする時に、皆で揃って前に出た方が効果はあるのではないかという意見があり、入れさせてもらった。

(委員) 事業名が「内村地域住民の交流事業」ということで、地域に密着したということは非常に大切なことだと思う。内村っ娘の会の皆さんの場合は、地域活動のオピニオンリーダー的な位置になっており、地域のことと一緒に、もう少し周辺に対する影響力も大きい

に及ぼしてほしい。広く認知されるような活動を是非一緒にやってほしい。

(委員) 遊休荒廃地はベリーを主にやっているということで、現在規模はどの程度か。

(代表者) ブルーベリーとスグリとラズベリー、色々なベリーを試験的に植えているが、ブルーベリーは約 2,000 本、スグリは約 1,000 本。ラズベリーは約 100 本ある。ラズベリーの場合は丈夫なため、苗を冷し、観光地のあちこち雑草が生えているところや山の草が生えているところに植え付け、観光客や地元の人が黙って採って食べられるような地域づくりをしたいと思っている。そのために講習会もたくさん開きたいと思っている。

鹿教湯温泉 花と緑のホスピタリティー (鹿教湯温泉観光協会)

【事務局から団体概要と関係課調書について説明、申請団体代表者から事業説明】

(委員) 資料 6 - 14 年度別事業計画で、この事業は 2 年で終わるということになっているが、今までこういう事業をやってきた団体は、継続的に維持管理が大変だという意見が殆どだが、その点はどのように考えているか。3 年目以降は全く計上しないのか。その後の資金手当てはどうするのか。観光協会で持つのか。維持管理と 3 年目以降の体制をどのようにするかを聞きたい。

(代表者) 3 年目以降の記載はないが、総事業費という部分の中では、3 年目以降も事業計画は予定をしている。3 年目以降について、草刈りや周りのお花の手入れという部分は当然出てくる。それに関しては、観光協会で事業予算を計上してやっていく予定である。

(委員) 資料 6 - 2 収支予算書について、参加者負担金が 0 円になっているが、0 円からスタートするということか。アイデアはわかるが、色々な費用が出てくるため、参加者負担金は少し納めた方がいいのではないかと。もう一点、なぜシャクナゲなのか。紅葉橋から薬師堂までの遊歩道脇にシャクナゲが本当に適当なのか。

(代表者) 参加者負担金 0 円については、観光協会としては協会の事業という部分にも位置づけをするため、当然協会の負担を合わせてやっていく。色々な方に協力いただくということで、例えば宿泊客にも PR し、一緒になってやっていこうということで、そういった方への負担金は 0 円ということにしている。シャクナゲについては、洋シャクナゲは毒があって食べないが、山のアジサイは獣の食害対象になるので避けよう、洋シャクナゲは今まで食べられたということがあまりないので、洋シャクナゲにしたということである。

産学連携 病院と温泉がある、特色ある地域づくり事業 (鹿教湯温泉 100 年ブランド創造プロジェクト)

【事務局から団体概要と関係課調書について説明、申請団体代表者から事業説明】

(委員) 資料 7 - 4、25 年 3 月にマスタープラン策定予定とある。大体できているのではないかと思うので、概略をお聞きしたい。

(代表者) マスタープランについては、事実上できている。概略は、現在ある旅館が全て旅館として今後も継続していくのか。そういったことも含め、かなりフレームを取り払った話し合いになった。地域として福祉に貢献していくとか、旅館やホテルの設備もあるので、これまでどおり宿泊施設として活用していくのかどうか。例えば、温泉のようなものを、熱エネルギーをどうするか。温泉の持っている物的なエネルギーとしてもどうしていくのか。色々和多岐に渡っている。

(委員) 100 年ブランドとしてのマスタープランか。

(代表者) そのとおりです。

(委員) まだ完全ではないということか。

(代表者) ほぼ提出できる状態にはなっている。

(委員) 機会があれば、地域協議会にもまわしていただきたい。

(代表者) はい。早急に手配したいと思います。

(委員) 大学の先生と若い学生の色々なアイデアを使ってというのは非常によいと思うが、実践的な経験を持ってそういうことをやってきた全国の、例えば温泉地を活性化しているとか、そういうものを是非一緒に入れていかなければ、学校の先生と生徒だけではある程度偏ってしまう配があるのではないかと。もう少し広い形で色々な情報を盛り込む努力をしていただきたい。もう一点、色々検討しているメディカルツーリズムの考え方は外せないポイントだと思うが、そういうものをもっと突き詰めていくことを、これも学生レベルではなく、もっと専門的な医療関係の人も交えてやっていくような、多面的な取り組みと一緒にやっていく必要があるのではないかと思う。

(代表者) これまでも1年間、複数回に渡って専門家の方に入っていただき、観光協会としての独自研究を行ってきた。目的は理想と現実の整合をとるため、旅行会社に在籍していた方に各地域の現状、特に活性化している温泉地域の情報を伺った。その内容や検討結果はマスタープランにも反映している。

メディカルツーリズムは、以前から病院の上層部との話し合いはあったが、なかなか現実と合わないケースがあった。その状況を改善するために、病院の若い職員の方々と旅館組合の青年部との交流を始めている。まずは、人的交流を行い、次の展開につなげたいという状況である。

・・・10分間休憩・・・

花づくり交流事業(石井花と緑の会)

【事務局から団体概要と関係課調書について説明、申請団体代表者から事業説明】

(委員) 花の水くれはどのように行う予定か。

(代表者) 自治会所有の大きなポリタンクと、水中ポンプにより対応する予定である。

(委員) 5年間の補助期間終了後の管理方法は。

(代表者) 事業主体である花とみどりの会が中心となって、自治会内のほかの花壇も含めて、自治会と連携して管理を継続していく。

(委員) 今回の申請は、松山(株)倉庫前の花壇1箇所が対象となっているが、石井自治会内のほかの花壇の管理との関係はどのようになっているか。連携関係は。

(代表者) 石井地域内には3箇所の花壇がある。管理は、自治会以外にもPTAや民生委員、中学生とも連携して行っていく予定である。

(委員) この活動について、子ども達にはどのように参加してもらう予定か。

(代表者) これから対応を考える部分であるが、PTA活動に含めて対応してもらう予定である。

(委員) 立看板以外の次年度以降の事業予定はどうなっているか。

(代表者) 看板は今回の事業費で大きな部分である。次年以降に看板を違う場所で設置するかどうかは、検討事項であると考えている。

箱山城跡周辺里山整備事業（箱山城・桜ロードの会）

【事務局から団体概要と関係課調書について説明、申請団体代表者から事業説明】

（委員）桜の植栽に関して、鹿の食害などへの対応は。

（代表者）数年前に植えた大きな苗木は食害にあわずに育っている。小さな苗木は鹿の食害に遭い易い。竹などで防護はしているものの、鹿の数も増えているようで、対応に苦慮している状況であるが、今年は専用のネットフェンスで対応する予定である。

（委員）他地域への作業などの呼びかけ予定は。子ども達への参加の呼びかけは。

（代表者）今までも地域の自治会に声をかけて参加してもらっている。小学生の子供たちは地域の育成会に呼びかけ、家族同伴で参加してもらっている。小学6年生には卒業記念として、鳥の巣箱を作成設置する活動も行っている。

丸子地域防災意識高揚啓発事業（丸子地域の防災を考える会）

【事務局から団体概要と関係課調書について説明、申請団体代表者から事業説明】

（委員）主な事業が講演会になっているが、それが終了してからはどんな事業を行うのか。講演会が主な活動で、一過性のものになってしまわないか。地域住民へ意識が浸透するかどうか心配である。自治会との連携に関する考えは。

（代表者）5年間で全てのことが完了するとは考えていないが、大切なのはこの5年間でいろいろな情報を地域に伝えたい。その情報を得た人たちが、主体的に防災活動を展開できるよう、防災士をどのような位置づけで考えるか。政治的な課題でもあるが、防災士は小諸市では資格取得に関して受験補助の対照となっている。防災士の育成に力を入れている自治体が増えてきている。この資格を取得すると防災情報が中央から来る、また防災士による防災会議の案内もある。このことは地方でできる民間レベルの地域防災リーダーの育成につながるという情報を得ている。行政でなく、災害の際の自助や共助の場面で中心的に活動できる防災士の育成をこの5年間で考えなければいけないと思っている。

（委員）行政限界に関する説明があったが、行政との連携についてはどのように考えているか。

（代表者）協働する部署としては、市の危機管理室を考えている。民間レベルでもどのようなものがあるかについて、情報交換したい。ほか関連する団体とも連携を考えている。

下長瀬地域のウォーキングコースの整備（下長瀬自治会）

【事務局から団体概要と関係課調書について説明、申請団体代表者から事業説明】

（委員）ウォーキングロードの土の入れ替えなどはどのように考えているか。

（代表者）資材の経年劣化などを考慮して、コンクリート舗装を行う予定である。

（委員）ウォーキングマップもPRして、広く参加者を募ってもらいたい。

（代表者）毎回80名くらいの参加がある。マップも有効活用してPRも広げていきたい。

未来ある子供たちの為に安全で過ごしやすい環境を作る事業（子供の未来と健康を考える会）

【事務局から団体概要と関係課調書について説明、申請団体代表者から事業説明】

（委員）食の安全に関して、講習会だけでなく、安全な食材を使った家族、親子体験教室のような取り組みの予定はあるか。

(代表者)今のところ、子供たちと一緒に食に関する教室を開催する予定は無い。これからの事業展開により、食育も考えていきたい。現在想定している参加者の子供たちは、幼児であるため、一緒に参加する形の教室はできないと思う。

(委員)予算のなかで、賃借料のレンタル代が高額であるが、目的は子供たちを遊ばせるためだけのものか。

(代表者)エア-遊具は、体育館に置けるような大きなもので、最大10名程度が入れる。安全対策として必ずスタッフが付くようになっている。効果としては、全身運動としてトランポリン効果があり、子どもたちの体にとっても良いものである。エア-遊具は子ども達も楽しく遊べる。借用料は、ほかを探せばもっと安いところがあるかもしれない。

(委員)活動実績も含めて、具体的な活動場所を教えてください。

(代表者)今までは、こどもの園や公民館で活動を行っていたが、この事業ではいろいろな公民館などを予定している。こどもの園とは、上田市の認可外保育園の事である。

(委員)自治会なども含めてコミュニケーションはどのようにしているか。

(代表者)この事業は、こどもの園とは別に考えている。こどもの園の方も個人の立場で参加者している。主催者も母親の立場から、子育て情報を共有しながら楽しく事業を進めたい。

4 報告事項

(協議事項タイムスケジュールの関係で、上記 と の間で報告説明)

(1) 上田市運賃低減バス運行計画(案)について

・地域交通政策課から資料により詳細説明

資料2:

主な質疑の内容

(委員)良い計画なので、積極的に進めてもらいたい。丸子地域としては、まりんこ号の運行について、大屋駅への接続なども検討してもらいたい。また、タクシー会社との協議状況を教えていただきたい。

(地域交通政策課)今回の検討は路線バスに関するもので、まりんこ号の大屋駅への接続は検討されていないが、同様の御意見が多くあれば、今後の検討事項としたい。タクシー業界に関する事項は、運賃低減により影響があるとの声があるが、今回の計画は、市として市民に対して、どのようなサービス向上策が提供できるかを考慮したもの。タクシー業界にも内容を理解していただき、各種の検討を進めたい。

(委員)大屋駅への接続は協議会の分科会において、発足時の早期に検討を行った事項である。その段階で建設課への相談を行っているので、当然路線バスの見直しの際も検討材料となるべきではないか。

(建設課)まりんこ号は路線バスの通っていない地域を対象に、通院などの利便性向上を目的として運行したものである。路線バスとの整合などはこれからも協議会の分科会において検討いただきたい。

(委員)路線バスの運賃が低減されれば、地域交通のまりんこ号は利用されなくなってしまうのではないか。路線バスの運賃低減は賛成だが、まりんこ号の有効活用を考えると、大屋駅への接続はぜひ検討してもらいたい。

(委員)陸運局の規制で、路線バスと地域交通が同じ路線を使うことはできないと思う。

(委員) まりんこ号の運行に関しても、PRが十分できない状況だが、路線バスの利用者増加に関しても、しっかりPRしてもらいたい。鹿教湯路線については、増便をお願いしたい。また、夜間の利便性を向上してもらいたい。

(地域交通政策課) 多くの方に乗ってもらえるよう、しっかりとPRしていきたい。また、地域交通に関してもPRしていきたい。路線バスの増便についても、利用者調査を実施したうえで、増便も含めて検討していきたい。

(委員) 昨年のキッズバスはPR方法として、有効な手段の一つであったと思うが、来年度は同様の計画はあるか。

(地域交通政策課) キッズバスは初めての取り組みであったが、事業者からの聞き取りでは、子供の利用が普段の3倍くらいあったとのこと。次年度も何らかの方法でPRを行っていききたい。

(委員) バスに関しては、安い運賃が全てではないと思う。料金低減のほかにも1.5倍以上の利用者増を目指して、何らかの方策を講じる必要があると思う。また、料金低減に対する財源はどのように考えているか。

(地域交通政策課) 実証運行時に調査を行うと共に利用者アンケートを実施し、いかにして利用者を増やすかを検討していく。停留所や便数を増やす事も検討したい。財源に関しては、料金低減により市の負担は増えるが、利用者増加により、対応することを想定している。

(委員) 今までの考えの延長線上では、利用者増加を実現できないのではないかと。発想転換した取り組みなども考える必要がある。

(地域交通政策課) 普段乗らない方々にいかに乗ってもらうかがポイントだと思う。しっかりとPRし、住民の皆さんにも危機感を持って御協力いただきたいと考えている。

(委員) 市全体の補助金額は年々増加しているが、丸子地域の金額は減額となっている部分があるがその内容は。路線バスの運賃低減は賛成である。企業などと連携してマイカー規制を週末などに設けたり、週末の夜間乗り合わせなど、工夫したPRしてもらいたい。

(地域交通政策課) 市からの支出されている補助金の該当は武石線だけである。鹿教湯線は国と県の補助だけである。武石線はデマンド交通の運行が開始された関係があり、便数を減らした経過がある。

(委員) 運賃設定は大人も子供同額か。

(地域交通政策課) 小学生以下は半額である。

(委員) 国等の補助を受けている既設路線に対して、さらに市が補助を行うことは可能か。

(地域交通政策課) 路線の運行要件に合えば、国、県、市のそれぞれから補助を受けることは可能である。

(委員) 実際にバスに乗る世代、例えば通学に利用する高校生などへのアンケート調査が必要ではないか。

(地域交通政策課) 主な利用者として想定しているのは、高校生である。料金が高額で利用していない方もいるようだ。今回の料金低減で負担軽減される。親が車で送迎をしている方々にもアピールしていきたい。

質疑終了

3階第2会議室へ移動し、平成25年度わがまち魅力アップ応援事業選考審査会開催

平成25年度わがまち魅力アップ応援事業選考審査結果

採択事業（10件）

和太鼓の里 鹿教湯温泉 推進事業

情緒あふれる霊泉寺地区の魅力アップ&地域がつながる連携創出事業

「地域で育てよう！未来の国際人（英語のできる子ども達）」

共生のできる地域づくり

郷土料理を通じた内村地域住民の交流事業

鹿教湯温泉 花と緑のホスピタリティー

産学連携 病院と温泉がある、特色ある地域づくり事業

花づくり交流事業

箱山城跡周辺里山整備事業

下長瀬地域のウォーキングコースの整備

不採択事業（2件）

丸子地域防災意識高揚啓発事業

未来ある子供たちの為に安全で過ごしやすい環境を作る事業

5 その他

(1) 次回以降の会議の日程等について

・第1回丸子地域協議会 平成25年4月23日（火曜日）午後1時30分から
丸子地域自治センター4階 講堂

(2) その他

・特になし

6 閉会 17:30